

「2-2 高齢者がいきいきと暮せるまちづくり」に関する委員意見・市の取組状況等

委員からの意見	現在の市の取組状況・考え方	改善すべき点、新たなご提案等
<p>「高齢者の相互支援」には大いに同意する。認知症予防や健康寿命延伸には外部とのふれあいや社会参加が必要である。元気な高齢者にボランティアや支援員として活躍してもらう仕組みづくりが求められる。</p>	<p>・取組方針①及び主な取組に記載しました。</p>	<p>(審議会にてご意見をお願いします。)</p>
<p>地域で暮らしを支え合うまちづくりの実現のためには、向こう三軒両隣の共助が原点となる。小集団活動(趣味サークル、ふれあいサロン等)への参加を推進する。</p>	<p>・現状・課題及び取組方針①②に記載しました。</p>	
<p>地域での助け合い、支え合いやお互いさまのまちづくりを推進し、継続するためには、元気な高齢者は支える側になり、支援される人も遠慮なく依頼できる制度が必要ではないか。(有償ボランティア等)</p>	<p>・取組方針②の具体的検討の中で、いただいたご意見を参考にさせていただければと思います。</p>	
<p>2025年以降の人口や高齢化率の予測を考慮し、相談のブランチを設けることも検討すべきである。</p>	<p>・取組方針②の主な取組に「地域包括支援センターの各中学校圏域への設置」を記載しました。</p>	
<p>特別養護ホームについて、現在でも入居待ちが発生している。今後の高齢化も見据え、高齢者の居住・生活支援についても検討する必要がある。</p>	<p>・現状・課題及び取組方針③に記載しました。</p>	
<p>学区に1つは小規模多機能型居宅介護の機能が必要である。地域での支え合いや助け合いで地域ばかりに負担がかからないよう、公的なサービスや制度でカバーすることも念頭に置いてほしい。</p>	<p>・取組方針③として「介護サービスの提供と適正化の推進」を掲げ、主な取組として「小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスの強化推進」を明記し、指標にも設定しました。</p>	